

議長 次に、質問順位2番 1番議員 嘉屋富公君。

議長 嘉屋君。

嘉屋議員 おはようございます。通告に従いまして質問させていただきます。

現在、和木町ではイベントが減っています。過去を振り返って見ると、町を挙げての町民運動会、文化祭、ロードレース、クロスカントリー大会、ローズフェスタ等、和木町ならではのイベントがあり、町民同士のコミュニケーションも取りやすく、活気もありました。他の市町でも色んなイベントを企画して町おこしを行なっています。4年後には町政50周年になりますが、今後継続していけるイベントを企画してはどうか尋ねます。

和木町の地域性を活かし、継続してでき、全体が盛り上がるイベントを企画出来ないか。現在は個人情報法等で隣近所にこういった方が住んでいるかも知りにくい状況にあります。災害時などのいざというとき助け合う事が困難になります。イベントを通じてコミュニケーションを取り、できれば健康寿命を延ばす事が出来れば最高の企画と考えます。いかがでしょうか。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 イベントについてのご質問をいただきました。

わき愛あいフェスティバルなどは、次年度以降も継続して開催することを考えておりますが、今議員からのご紹介のありましたイベントについては、過去において行われていたというものもあります。

議員が言われますとおり、イベントの開催は町民のコミュニケーションの確保に有効であり、地域の活性化にもつながると考えています。一方で、イベントの内容、それから規模につきましては、時代、あるいは町民のニーズの変化などに応じて企画

されるべきものであって、このことから各種のイベントは必要に応じて変化していくものであるというふうに思っております。

本町では、“みんなが生徒みんなが先生”という理念のもとで「町ぐるみ和木学園構想事業」を展開しております。毎年度当初に町民の皆さまにワークショップに参加していただきまして、その中で町民の皆さまから出された意見・アイデアを基に、生涯学習を推進するための各種講座やイベントを開催しております。

蜂ヶ峯総合公園で行ってございましたローズフェスタについては、今年度をもって終了を迎えました。2年後には、蜂ヶ峯公園のにぎわい創出拠点整備事業が完了を迎える見込みとなっております。2年後新たな施設のオープンに向けて、蜂ヶ峯公園の魅力を最大限に活用し、自然とふれあいや文化、スポーツ、あるいは食といったことをテーマにした、にぎわい創造事業に係る予算を31年度に計上しております。具体的には、和木町地域振興協会を事務局として、イベント開催に向けた実行委員会を立ち上げていただきまして、蜂ヶ峯公園を中心に春から冬まで年間を通じて10を超えるイベントを開催ようとしております。

先月2月24日、和木美術館において、地域振興協会によりますアートウィングマルシェというものが開催され、こちらには400人を超える沢山の方が来場していただき、大変な好評を博しておられました。これからの2年間は、どちらかと言いますと、こういった小ぶりのイベント、これが数多く開催されることで、地域が盛り上がっていくのではないかと考えております。

こうした活動によりまして、町民のコミュニケーションの向上、あるいは地域の活性化につながることを期待できますし、議員がおっしゃられました健康寿命の延伸にまでつながれば、より望ましいことであると思っております。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 今の回答で殆どわかりましたけど、協働の町づくりを掲げています。行政が企画して行政と町民が実行委員会を立ち上げて、委ねてみるのも一つの方法と考えます。また町民にイベントなどの公募を呼び掛け実行に移してもよいと考えるがいかがでしょうか。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 先ほど答弁したことでご理解いただけたかと思いましたが、各種イベントの開催については、時代の流れや住民のニーズ、それから主催者側の思いにかなったものであるべきでありまして、住民のアイデア、あるいは意見に沿ったイベントにするため、そういったことをやるためには実行委員会の立上げ、それから企画運営なども、極力住民の皆さまに行っていただきたいというふうに考えております。住民の皆さままで対応が困難な部分、あるいはどうしても不足する部分、こういったところを町がフォローさせていただきたいというふうに思います。

このことから、実行委員会の立上げなどは住民の皆さまが主体性をもって行われることが望ましく、町から公募を働きかける事、こういった事は極力控えるべきであって、このことが協働のまちづくりにつながるものと考えております。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 活気ある和木町のイベントに対しての企画、これに対しての質問はこれで終わりたいと思います。私もできるだけ協力してイベントに参加したいと考えております。

次の質問です。

前回定例会で同僚議員がふるさと納税について質問しましたが、具体的な回答もなかったと感じました。そこで、和木町全体を視野に入れて、和木町の特産物を開発してみればどうでしょうか。今年度ふるさと納税は昨年と比べ約5割にも満たない状況です。このままでは下降線を辿るばかりと考えます。現

にあるノウハウを活かし、例えば椎茸栽培を拡張をはかり、生産高を上げ利益に結び付ける方法もあると考えますがいかがでしょうか

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 先の12月定例会でふるさと納税に関わる一般質問をいただきました。ただこの際に特産品に関わる質問ではなかったと思っていますので、特産品についての回答は行っていないというふうに記憶しています。

町内では里山研究会の皆さまが椎茸栽培に取り組まれておられ、町から里山研究会に補助金の支給などにより、その活動を支援しています。毎年2月には、森林学習の一環として里山研究会会員のご指導の下で、小学4年生による椎茸菌の原木への埋め込みが行われるなど、地域に根ざした活動をされておられます。

椎茸栽培に取り組まれている方は、既に十分な知識、経験をお持ちだと思います。生産性を上げて利益に結び付けようという考えがあれば、既に椎茸栽培の拡張を図っておられるものと思います。土地の問題、あるいは労働力、販路の確保など色々問題があり、恒常的な利益に結びつけるには難しい面があるのではないかとこのように思っております。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 それではですね、大谷地区から瀬田河川プールの中で淡水魚の養殖、または釣り堀等地域性を活かした事業の展開を考えてはいかがでしょうか。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 瀬田川は県管理の河川でありますので、その中で淡水魚の養殖が可能かどうかちょっと疑問があるかなというふうに思い

ます。

議員が提案された事業を実施に結び付けようという熱意を持った方がおられるか否か、おられるかどうかが一番大事なところでありまして、先ほど申しましたとおり、事業を開始して収益を上げるまでにはいろいろと難しい問題があるのではないのでしょうか。

そういった熱意を持つ方がいらっしゃいましたら、町としては、いまある制度の中でお手伝い、ご相談に応じたいというふうに考えています。

議長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 それでは地域性と雇用を考え、生産して利益の出る作物、またそういった物産を開発する企画をして見積もりを提出すれば、どこまで援助できるのでしょうか。

議長 田中企画総務課長。

田中企画総務課長 地域の活性化、あるいは雇用の創出、また定住・移住支援を行うために、平成31年度予算におきまして、新規創業支援補助金、あるいは東京圏からの移住者を対象として企業募集マッチングサイトに適合された方への移住就業支援補助金、地域おこし協力隊OBが起業する際に要する経費を支援する起業支援補助金、こういったものを計上しており、すでに町の方に相談に来られている方もいらっしゃいます。また、山口県などにおいてもいろいろなそういった制度が設けられているようです。

このような制度を積極的に活用していただきたいというふうに思っておりますし、町、あるいは商工会において相談に応じることもいつでもできます。また、必要があれば、新たな制度を検討することもできるのではないかと考えています。

まずは、創業などに意欲をお持ちの方が事業計画、それから資金計画、こういったものを立てられることから始まるのかな

というふうに思っております。

議 長 嘉屋富公君。

嘉屋議員 地方創生を考え、和木町の活気を考えると、今後ともこういったイベント、また企画が必要と考えます。今後も引き続き私も努力してまいります。町民の方々にもわかりやすく公募を出ればしていただくようお願いして私の質問を終わります。

議 長 再質問がないようですので、嘉屋富公君の一般質問を終わります。